

沖縄県立  
埋蔵文化財  
センター  
企画展

平成13年度  
**発掘調査速報展**

首里城跡(城郭)  
徳林寺遺跡  
那覇市  
那覇市

那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市

那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市



那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市  
那覇市

平成14年7月30日(火)~9月1日(日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

## 目次

平成13年度発掘調査地区分布図	1
平成13年度発掘調査地区一覧	2
なぜ、行政機関(埋蔵文化財センター)が 発掘調査をおこなうのでしょうか?	3
御茶屋御殿跡	4
円覚寺跡	5
首里城跡(城郭南側下地区)	6
首里城跡(書院・鎖之間地区)	7
首里城跡(城の下地区)	8
首里城跡(城郭)	9
後兼久原遺跡	10
基地内埋蔵文化財分布調査	11
新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査	12
戦争遺跡詳細分布調査の目的	13
戦争遺跡詳細分布調査	14
尻並遺跡	15
平成14年度発掘調査地区一覧	16

### 凡例

- 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「平成13年度発掘調査速報展」を補完するものとして編集したものである。
- 本書の順序は、展示の各コーナーに沿って掲載している。
- 許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。

# ごあいさつ

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、過去の人々が残した貝塚、ムラ跡、グスク（城砦）、墓などの遺跡を発掘し、その成果を整理分析して、遺構・遺物の実測図、遺跡の地形図・土層図やこれらの写真、統計資料などを含めた「発掘調査報告書」を発行しています。また、発掘された土器、石器、貝器、骨器、陶磁器、瓦、金属器などの遺物や、撮影・実測された遺構の図面、写真などは、当埋蔵文化財センターに収蔵保管しています。

これらの遺跡・遺物の内容、成果についてはそれぞれの「発掘調査報告書」に目を通すが、あるいは当埋蔵文化財センターで資料を閲覧するなどの方法で知ることができます。しかし、調査報告書の発行までには数年を要することから、調査報告書刊行前にそのあらましと主な出土品を広く公開し、なるべく早く県内外の方々に見ていただきたいと考えております。そこで当埋蔵文化財センターでは、前年度の発掘成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年実施しております。

平成13（2001）年度に当埋蔵文化財センターでは、首里城や円覚寺などの史跡（公園）整備にともなう発掘調査5件、開発にともなう緊急発掘調査2件、遺跡範囲確認調査1件、遺跡分布調査3件を実施しました。「発掘調査速報展」では、これらの調査成果のなかから主な遺構の写真パネルや出土品を展示し、そのあらましを紹介しております。

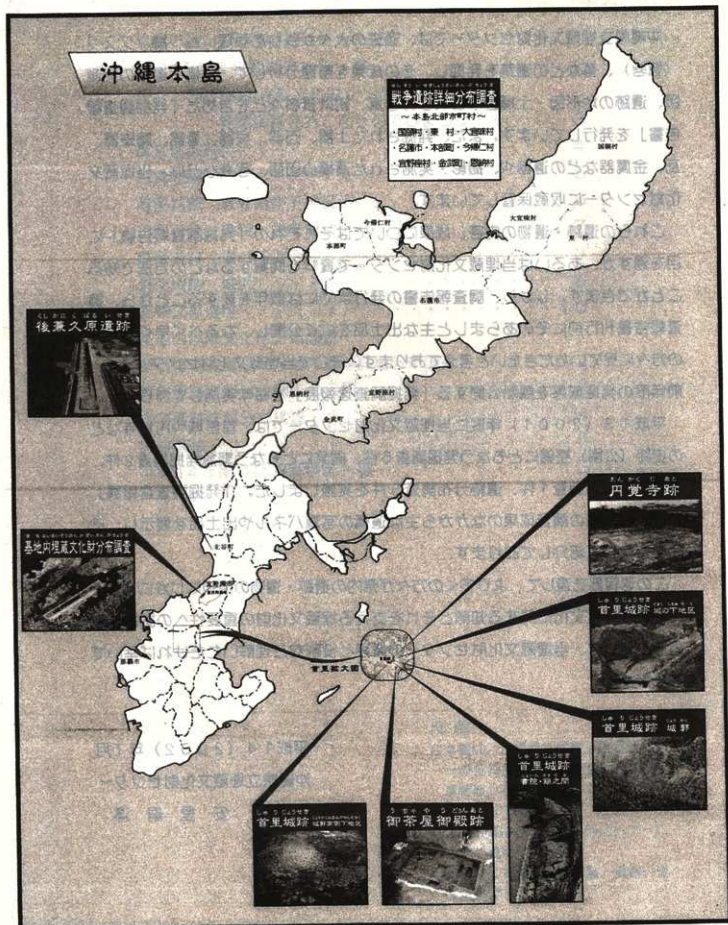
この速報展を通して、より多くの方々が県内の遺跡・遺物の情報にじかに接し、沖縄の歴史と文化に関する知識とそれを支える埋蔵文化財の重要性への認識を深めるとともに、当埋蔵文化財センターの業務と役割をご理解いただければ幸いです。

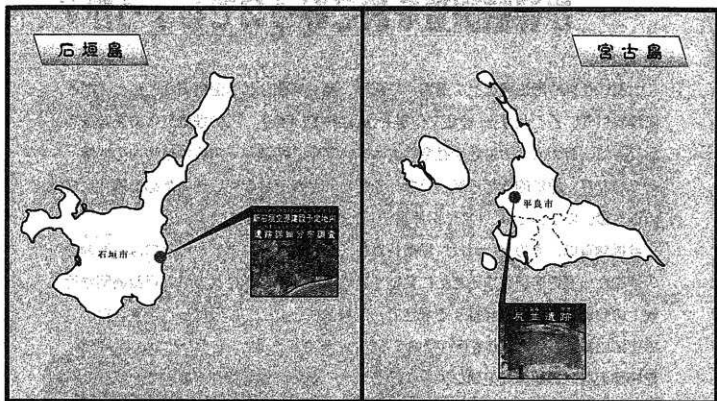
平成14（2002）年7月

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 安里 嗣 淳

# 平成13年度発掘調査地区分布図





## 平成13年度発掘調査地区一覧

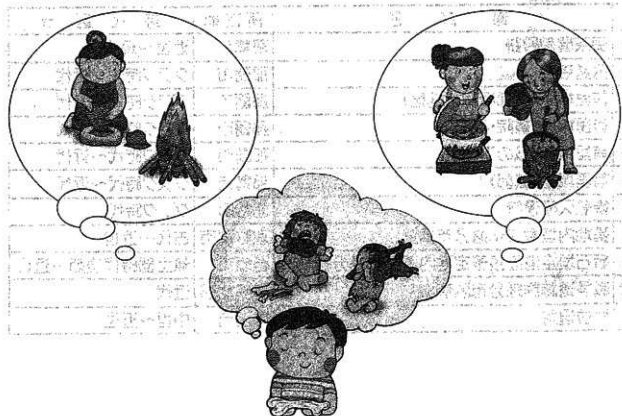
	遺 跡 名	所在地	時 代 区 分
1	御茶屋御殿跡	那覇市	近世～現代
2	円覚寺跡	那覇市	グスク時代～近代
3	首里城跡(城郭南側下地区)	那覇市	グスク時代～現代
4	首里城跡(書院・鎖之間)	那覇市	グスク時代～近代
5	首里城跡(城の下地区)	那覇市	グスク時代～近代
6	首里城跡(城郭)	那覇市	グスク時代～近代
7	後兼久原遺跡	北谷町	グスク時代
8	基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市	古代～近世
9	新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査	石垣市	無土器時代後期～近代
10	戦争遺跡詳細分布調査	本島北部	近代
11	尻並遺跡	平良市	中世～近世

# なぜ、行政機関（埋蔵文化財センター） が発掘調査をおこなうのでしょうか？

土器や石器や陶磁器などの遺物、住居跡、墓、城壁などの遺構のほとんどは地下に埋もれていることから「埋蔵文化財」と呼ばれています。この埋蔵文化財を発掘することで、昔の人々の生活や社会のようす、文化の特徴とその広がりや他の地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどを知ることができます。そのため埋蔵文化財の取り扱いについては、「文化財保護法」で決められています。

発掘調査は、その「きっかけ（動機）」から二つに分けられます。ひとつは、学術上の理由から歴史を研究するために発掘する場合です。もうひとつは、行政機関が行政上の動機（必要）から発掘する場合で、これはさらに二つに分けられます。ひとつは史跡に指定された遺跡を保存整備するために発掘する場合、もうひとつは道路整備、建物建造などの諸開発工事により、どうしても遺跡の現地保存ができず、「記録保存」をするために発掘する場合です。

史跡整備や記録保存のための調査は、当埋蔵文化財センターや市町村の教育委員会がおこなっています。県内では、毎年数十件の行政発掘調査がありますので、機会があれば身近なところで発掘現場のようすを見学することをおすすめします。



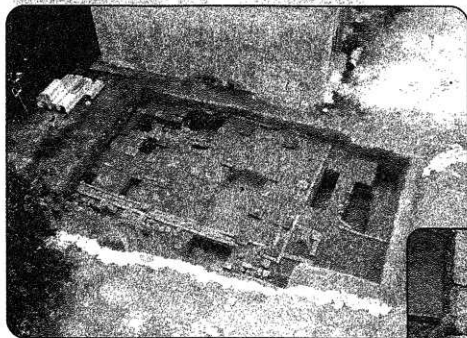
# う ち ゃ や う どん あ と 御茶屋御殿跡

所在地 那覇市首里崎山町

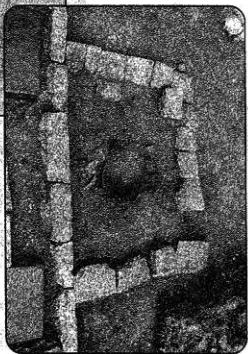
時代 近世～現代

調査期間 平成13年7月16日～平成13年8月31日

御茶屋御殿跡は、首里城跡の南東側にある旧王家の別邸で、国王が遊覧し、冊封使などの国賓の歓待等に使用されていました。13年度は、12年度に引き続き建物跡（茶亭）の確認調査を行いました。見取図及び古写真を参考に調査区を首里カトリック教会内に設定し、調査した結果、建物跡、石積遺構を検出しました。遺構の残存状態は良好で、特に建物跡では柱を置く礎石の配置がほぼ往時の姿で確認できました。また、12年度検出した石積遺構の延長部分も確認できました。



遺構検出状況



埋壁検出状況

## 円覚寺跡

所在地 那覇市首里当蔵町<sup>とうのくらちやう</sup>  
 時代 グスク時代～近代  
 調査期間 平成14年6月1日～6月30日

円覚寺は平成9年度から調査が行われており、13年度は調査最終年度で主に円覚寺<sup>こんりやう</sup>が建立された時期<sup>いじう</sup>の遺構<sup>ほつこつ</sup>を発掘しました。調査により、建立当時の円覚寺は古写真などで見るものと異なり、各建物や庭園<sup>いけん</sup>が幾度かの造り替えが行われていたことが、検出された石積溝、石列によってわかりました。

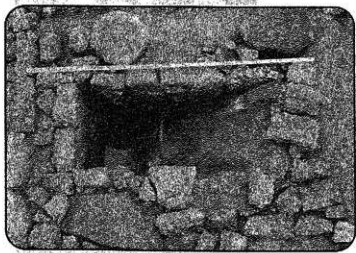


遺構全景

出土遺物は、主に中国・本土産の陶磁器<sup>とうしき</sup>、沖縄産陶器、瓦などが見られ、とりわけ、東南アジアへの輸出用として製作された伊万里焼<sup>いまりやき</sup>の鉢や東南アジア地域で魔除<sup>まぞ</sup>けの道具<sup>どうぐ</sup>として使われた蛇行刺<sup>だこうせん</sup>が出土している事は注目に値します。



蛇行刺（だこうせん）



庫裏地区のトイレ遺構



染付大鉢



しゅり じょうせき じょうかくみなみがわした ちく  
**首里城跡(城郭南側下地区)**

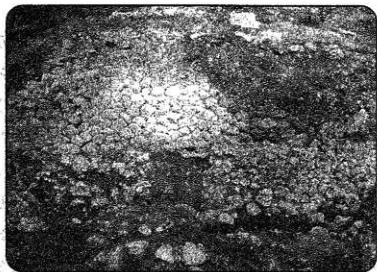
所在地 那覇市首里当蔵町

時代 グスク時代～現代

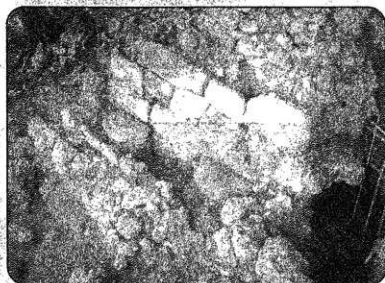
調査期間 平成13年9月3日～平成14年3月26日

首里城公園整備事業に伴い、平成13年度は首里城の城南側一帯を調査しました。遺跡の西側は旧琉球大学の廃棄物や土砂等が厚く堆積し、調査区が制限されたため、検出された遺構は石列のみでした。東側ではクンダグスクと思われる部分から石積が弧を描く状態で検出され、その他の場所からも石積及び石列を検出しました。

また、戦前の状況を把握するため古老から聞き取り調査も併せて実施しました。



石積検出状況



崖下石積遺構



銅鏡

# 首里城跡(書院・鎖之間地区)

所在地 那覇市首里当蔵町

時代 グスク時代～近代

調査期間 平成13年9月17日～平成14年3月15日

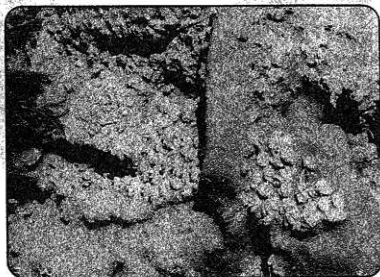
首里城公園の整備に伴って、首里城の南殿・番所の裏側(南側)に位置する、書院(琉球王が日常の仕事をする所)と鎖之間(薩摩から来た人たちを迎え入れる所)と呼ばれる建物跡を調査しました。建物に関するものはほとんど確認できませんでしたが、鎖之間跡からは、約10m程の範囲で平らな川原石が敷き詰められた状態で検出されました。また、別の所からはヒレジャコを敷き詰めた部分が検出され、首里城内では初めて確認されました。何のために作られたのかはまだ解っていません。



調査区全景



川原石敷き検出状況



ヒレジャコ検出状況

しゅりじょうせき ぐすく しちや

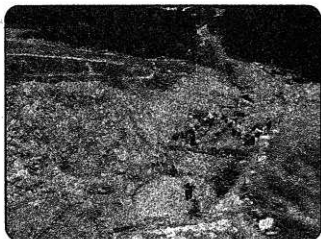
# 首里城跡(城の下地区)

所在地 那覇市首里当蔵町<sup>なは市しゅりとうざう町</sup>

時代 グスク時代～近代

調査期間 平成13年7月16日～平成14年1月31日

記録では、首里城久慶門から東へと延びる外郭城壁に沿うようにして石畳道が戦前まであり、「城の下(ぐすくのしちや)」と呼ばれていました。13年度は、その一帯を含めての全面調査を行い、その結果、幅5m、長さ40mの石畳が検出されました。遺物は、15世紀から近・現代のものまで大量に確認されており、今後の調査研究によって、より厳密な構築年代が判明するものと思われます。



発掘調査風景



石畳道全景(東側から)



石畳道と側壁(西側から)

## 首里城跡(城郭)

所在地 那覇市首里当蔵町

時代 グスク時代～近代

調査期間 平成13年7月16日～9月14日

首里城城郭の調査は、首里城城郭等復元整備事業に伴って昭和47年から行われています。最終調査となった13年度は首里城城郭の北側部分、約80mの区間の城壁を調査しました。最も残りが良い部分では、高さが8.5m、幅が10mの城壁が確認できました。

城壁に使われていた石は琉球石灰岩で、「野面積み」と「布積み」という2種類の積み方が見られました。

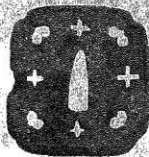
また、城壁の内部にひとまわり小さい別の城壁が隠れており、城壁の2重構造が確認できました。



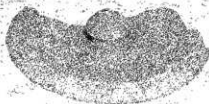
調査区全景



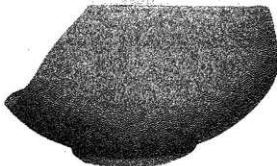
石積み状況



瓦(つば)



タイ瓦半磚土器蓋



青磁大鉢

くしかにくはる

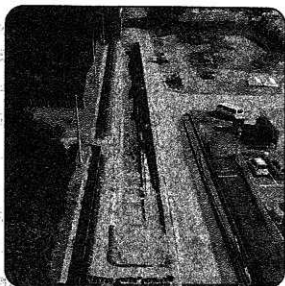
# 後兼久原遺跡

所在地 沖縄県中頭郡北谷町字桑江後兼久原

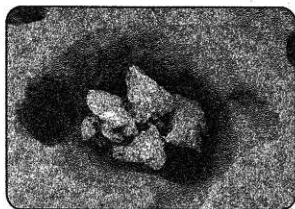
時代 グスク時代

調査期間 平成13年4月2日～平成14年2月28日

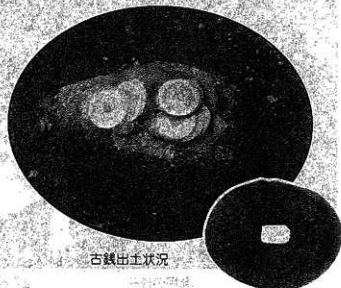
後兼久原遺跡は、北谷町役場の裏側（東側）に位置しています。前年度に引き続き調査が行われ、13年度は柱穴群、畑跡（？）、溝状遺構等が検出されました。柱穴群の検出状況から、住居等が同じ場所で建て替えられていたと推測でき、グスク時代の集落のあり方を検討していく上で大きな成果が得られました。今回の調査では、グスク土器をはじめ、青磁、白磁、染付、類須恵器、古銭、滑石製石鍋転用品等さまざまな遺物が出土しています。



調査区全景



柱穴検出状況

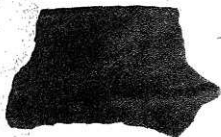


古銭出土状況

永楽通宝



滑石製石鍋片



額付土器

き ち ない まい ぞう ぶん が ざい ぶん ぶ ちょう き

# 基地内埋蔵文化財分布調査

調査対象地 在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場（宜野湾市）

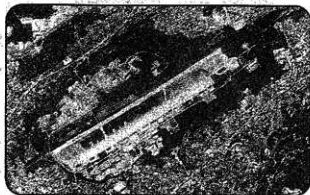
時代 古代～近世全般

調査期間 平成13年8月1日～平成14年3月30日

基地内埋蔵文化財分布調査事業は、平成9年度から在沖米軍基地内における埋蔵文化財の分布状況を把握することを目的として行っています。13年度は普天間飛行場内で、計262ヶ所の試掘調査を実施し、69ヶ所で遺構や遺物包含層が確認されました。

また、試掘作業の安全確保のため、不発弾等危険物確認の磁気探査も併せて実施しました。

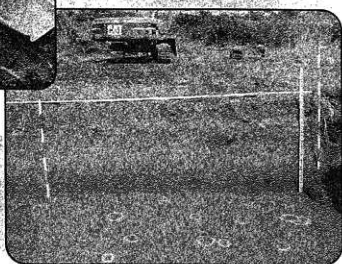
※ 遺物包含層…発掘の際、出土する遺物が含まれている層



普天間飛行場航空写真



発掘の様子



遺構（柱穴）及び包含層

# 新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査

所在地 石垣市白保

時代 無土器時代後期(11・12世紀)～近代

調査期間 平成13年6月25日～7月6日、11月19日～30日、

平成14年3月11日～20日 (計3回)

新石垣空港建設予定地周辺には、6つの遺跡(カラ岳遺跡、アブ遺跡、嘉良嶽貝塚、こくろまがわかわしり轟川川尻遺跡、もりやまさんらく盛山村落跡、ヤマレー石器材料地)が確認されています。13年度の調査で予定地の範囲を踏査した結果、嘉良嶽貝塚の北側で14～16世紀の八重山式土器の破片がみつかっています。

また、近世以降に造られたと思われる石積も予定地東側で幾つか確認されました。他に、1785～1817年に村落があったと言われている盛山村落跡付近からは、当時の人が使っていたと思われる茶碗や皿もみつかっています。



空港建設予定地(緑画が予定地)



石積



八重山土器露出状況

# 戦争遺跡詳細分布調査の目的

平成7（1995）年、文化庁により「史跡」の基準が改められた際に、太平洋戦争における戦争遺跡も史跡として指定することが可能となりました。それを受けて、平成7（1995）年に広島県の原爆ドームが国指定の史跡となり、平成8（1996）年にユネスコ世界遺産に登録されるなど、戦争遺跡を次の世代に伝えることの必要性が認められたといえます。

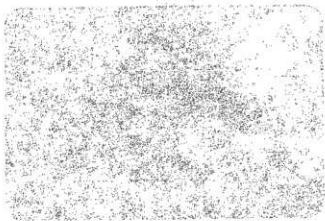
沖縄県は、去る沖縄戦により多くの一般住民を巻き込んだ激しい戦いがくり広げられました。そのため、多くの人命とともに、貴重な文化遺産が失われました。

現在、これらの戦争遺跡で、沖縄戦の様子を次の世代に伝える平和教育が行われています。しかし、戦争遺跡に対する関心は高まっていますが、それをどのように調査・研究するのかという検討は充分ではありませんでした。

このような点をふまえ、戦争遺跡の分布状況と、それぞれの詳しい調査を実施し、現状を把握することで、（1）文化財指定およびその保存に向けての資料、（2）諸開発事業から保護するための資料、（3）歴史学習・平和教育等への戦争遺跡の活用に供する基礎資料を作成することを目指しています。

## 戦争遺跡とは？

戦争遺跡とは、近代以降の戦争（沖縄県においては沖縄戦）と、戦争が行われる上で、戦闘や事件の加害・被害に関わって形成され、かつ現在に残された構築物・遺構や跡地を指しています。





せん そう い せきしょう さい ぶん ぶ ちょう さ  
**戦争遺跡詳細分布調査**

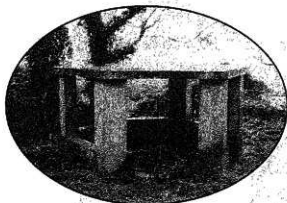
調査対象地 沖縄本島北部地区（10市町村）

時 代 近代

調査期間 平成13年5月1日～平成14年3月29日

この調査は、近代以降の戦争（沖縄県においては沖縄戦）と、その遂行過程の中で、戦闘や事件の加害・被害に関わって沖縄県内で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構や跡地の分布状況を確認することを調査の目的として平成10年度から行っています。

平成13年度は、本島北部地区を対象に文献調査等によって得られた情報をもとに現地調査を行い、地図中への記入（分布図作成）、必要に応じて構造物・遺構や跡地の計測・図化、写真撮影、聞き取り調査などを行いました。



本部町台茶の防空監視哨



早田壕



ギナン原のトーチカ



字大宜味の避難壕群

## 尻並遺跡

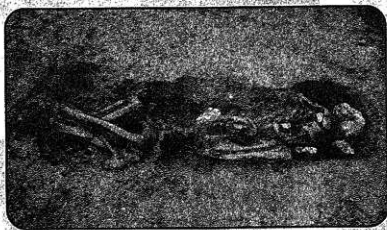
所在地 平良市字西里<sup>にしざと</sup>  
 時代 中世～近世  
 調査期間 平成13年8月1日～11月16日

今回の調査は、那覇地方・家庭裁判所平良支部<sup>ひららしよ</sup>の建て替え工事に先立って行われ、多くの屋根瓦と直径約50cm程度の浅い穴に石を詰め込んだものが見つかりました。これらは、明治時代にこの地に建てられた裁判所の屋根瓦と、支柱<sup>しちゆう</sup>石だと考えられます。



遺構全景

さらに掘り下げていくと、17～18世紀頃に掘られた大小の穴が幾つか検出されました。これらの穴は、ゴミ捨て穴（穴の中から馬・牛・イノシシ・魚などの骨が出てきた）や火炉、竈（男性の骨1体分を検出）として使われていたようです。



土坑墓(男性の骨)



瓶



染付碗



簪(かんざし)

# 平成14年度発掘調査地区一覽

	遺跡名	所在地	調査期間	時代区分
1	新城下原第2遺跡(キャンプ瑞慶覧内)	北谷町	9月～3月	縄文時代～現代
2	基地内埋蔵文化財分布調査(普天間基地内)	宜野湾市	7月～3月	古代～近世
3	首里城跡(書院・鎖之間)	那覇市	6月～9月	グスク時代～近代
4	首里城跡(真珠道)	那覇市	9月～2月	グスク時代～近代
5	フチサ古墓群(金城急斜地危険区)	那覇市	8月～12月	近世～近代
6	御茶屋御殿跡	那覇市	8月中	近世～現代
7	戦争遺跡詳細分布調査	周辺離島	6月～3月	近代
8	新石垣空港建設予定地内文化財詳細分布調査	石垣市	7月～11月	無土器時代後期～近代
9	与那国島嘉田地区	与那国町	8月～11月	近世

調  
069.9199  
0k



## 埋文センター行事案内

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、発掘調査の他にも様々な行事を企画しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### ●企画展

「復帰後30年間の県内発掘調査展」 2002年11月16日(土)～12月22日(日)

### ●移動展

「文化財保護強調週間によせて」 2002年10月28日(月)～11月8日(金)

### ●埋文センター文化講座

- ・「沖縄諸島における屋根瓦の歴史」 講師：上原静氏(沖縄国際大学総合文化学部)  
2002年8月10日(土)午後2時～
- ・「沖縄の縄文時代に関する講座」 講師：渡辺誠氏(名古屋大学名誉教授)  
2002年9月14日(土)午後2時～
- ・「県内の遺跡見学」  
2002年10月13日(日)
- ・「復帰後30年間の県内の発掘調査」 講師：安里嗣淳氏(沖縄県立埋蔵文化財センター)  
2002年11月30日(土)午後2時～
- ・「沖縄の近世古墓に関する講座」  
2003年2月2日(土)午後2時～

# 第一回 加賀藩 加賀藩 加賀藩



●休 所 日 毎週月曜日、国民の休日(こどもの日、文化の日を除く)  
年末年始(12月28日～1月4日)、懸賞の日(6月23日)  
※祝日と月曜日が重なったときは、翌火曜日も休所

●交 通 ◇沖縄自動車道西原ICより 車7分  
◇市外線バスターミナル発97番  
「旗大附属病院前」下車 徒歩1分

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7  
TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754  
<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>

埋蔵文化センター案内図

